

# 中小企業景況調査報告書

令和3年 1～3月期 実績  
 令和3年 4～6月期 見通し

**始良市商工会**  
 (令和3年3月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

## 〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	---	--

1. 調査対象期間 令和3年1～3月期を対象とし、調査時点は令和3年3月1日とした。  
令和3年4～6月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 29企業 (※始良市29企業を基に指数を表示してあり、あくまでも参考指数と理解下さい。)  
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：7企業 サービス業：8企業

## 県内産業別業況DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	2年 1月～3月期		▲25.6		▲20.7		▲38.7		▲22.4
	2年 4月～6月期		▲73.7		▲34.5		▲69.1		▲74.0
	2年 7月～9月期		▲62.5		▲24.1		▲55.4		▲62.6
	2年 10月～12月期		▲46.4		▲25.0		▲51.7		▲58.0
	3年 1月～3月期		▲46.4		3.5		▲44.9		▲59.7
	来期見通し(4～6月期)		▲4.9		▲21.4		▲34.5		▲33.7

## 総合(業況)

前年同期(令和2年1月～3月期)と比較した今期(令和3年1月～3月期)の業況は、製造業▲46.4(前年同期比20.8ポイント悪化)、建設業3.5(前年同期比24.2ポイント改善)、小売業▲44.9(前年同期比6.2ポイント悪化)、サービス業▲59.7(前年同期37.3ポイント悪化)となった。新型コロナウイルス感染の発症が確認された前年同期と比較すると、建設業を除き悪化であるものの、前期(令和2年10月～12月期)と比較すると、建設業28.5ポイント、小売業6.8ポイント改善となりサービス業が1.7ポイントやや悪化となった。年末からのGoToトラベルの停止に加え、首都圏の緊急事態宣言による時短営業等が県内でも少なからず影響があったと見られる。

なお、来期（令和3年4月～6月期）の見通し（DI）としては、今期と比較すると、建設業（24.9ポイント悪化）を除き、ワクチンにより新型コロナウイルスも少し落ち着くのではと予想され、製造業（41.5ポイント）、小売業（10.4ポイント）、サービス業（26.0ポイント）改善するとの見通しである。しかしながら、GoToEatの終了時期を迎えることになり、サービス業は依然として不安が窺え、中小・小規模事業者にとっては、終息するまで正念場が続くと思われる。

## 業種別景気動向

### 【製造業】 有効回答数 7企業

調査対象企業内訳：食料品(2)、窯業(1)、衣類(1)、家具(1)、印刷(1)、ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
2年1月～3月期		▲14.3		14.3		0.0		14.3
2年4月～6月期		▲57.1		▲42.9		▲28.6		▲28.6
2年7月～9月期		▲57.1		▲42.9		▲28.6		▲28.6
2年10月～12月期		▲28.6		▲28.6		▲14.3		▲28.6
3年1月～3月期		▲14.3		▲28.6		0.0		▲28.6
来期見通し(4～6月期)		▲14.3		▲14.3		▲14.3		0.0

#### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・コロナ前から計画されていた取引は、順調に推移しているが、今後新しい取引が始まるかは未確定である。
- ・従業員の確保が安定しておらず、生産数量への影響が出ている。派遣等で埋め合わせるも人件費が増加する結果となり、見込み通りの利益確保が困難となっている。従業員の確保と定着が現在の最重要課題。

#### <経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、人件費の増加が上位を占め、原材料の不足、生産設備の不足・老朽化、製品ニーズの変化への対応に苦慮している企業もある。

### 【建設業】 有効回答数 7企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)、設備工事業(1)、職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
2年1月～3月期		0.0		14.3		14.3		0.0
2年4月～6月期		▲57.1		▲42.9		▲14.3		▲42.9
2年7月～9月期		▲42.9		0.0		▲14.3		0.0
2年10月～12月期		▲28.6		▲14.3		▲14.3		▲14.3
3年1月～3月期		0.0		14.3		0.0		14.3
来期見通し(4～6月期)		14.3		0.0		0.0		0.0

#### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・新型コロナウイルスの影響で、先行きが見通せない状況となってきており、官民需要の停滞が顕著である。また、従業員の確保難の為、受注機会の損失に繋がっている企業もある。

#### <経営上の問題点>

- ・官公需要の停滞、従業員確保難が上位を占め、取引条件の悪化、材料価格の上昇、人件費の増加等、利益が出にくい状態になってきている懸念があるとしている企業もある。

### 【小売業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(4)、衣服(1)、各種商品(1)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	傘	▲	傘	▲	傘	▲	傘	▲
2年 1月～3月期	傘	▲50.0	傘	▲50.0	傘	▲25.0	傘	▲50.0
2年 4月～6月期	傘	▲100.0	傘	▲100.0	傘	▲75.0	傘	▲100.0
2年 7月～9月期	傘	▲100.0	傘	▲75.0	傘	▲75.0	傘	▲100.0
2年 10月～12月期	傘	▲87.5	傘	▲87.5	傘	▲50.0	傘	▲87.5
3年 1月～3月期	傘	▲62.5	傘	▲50.0	傘	▲50.0	傘	▲62.5
来期見通し(4～6月期)	傘	▲62.5	傘	▲62.5	傘	▲62.5	傘	▲75.0

#### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・コロナウイルスの影響で、需要が停滞し、食品や生活必需品しか動かない状況が続いている。特に衣料品小売りに関しては、かなり厳しい状況である。
- ・長引く新型コロナウイルスの影響、大型店舗、同業他者の進出により厳しい経営環境にあると感じる。事業継続も見通せない状況。

#### <経営上の問題点>

- ・大型店・中型店の進出による競争の激化を問題点として企業が多い。また購買力の他地域への流出、販売単価の低下・上昇難、仕入単価の上昇、消費者ニーズの変化への対応が上位を占め、同業者の進出、人件費以外の経費の増加、店舗の狭隘・老朽化、需要の停滞を問題としている企業もある。

### 【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)、飲食店(2)、その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	傘	▲	傘	▲	傘	▲	傘	▲
2年 1月～3月期	傘	0.0	傘	0.0	傘	0.0	傘	0.0
2年 4月～6月期	傘	▲87.5	傘	▲62.5	傘	▲50.0	傘	▲62.5
2年 7月～9月期	傘	▲62.5	傘	▲37.5	傘	▲25.0	傘	▲50.0
2年 10月～12月期	傘	▲62.5	傘	▲62.5	傘	▲62.5	傘	▲37.5
3年 1月～3月期	傘	▲87.5	傘	▲75.0	傘	▲62.5	傘	▲75.0
来期見通し(4～6月期)	傘	▲12.5	傘	▲25.0	傘	0.0	傘	▲12.5

#### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- 緊急事態宣言の解除を見越し、客数自体は戻ってきている感があるが、大人数の団体需要がないため、客単価は低いままである。今後、ワクチン接種が進めば、景気か上向くと予想されているので、今のうちに綿密な事業計画を立て、補助金等を活用し、新たな設備投資をおこない、他店との差別化を図っていきたい。
- ・新型コロナウイルスの影響で、イベント等がことごとく中止となり、売上の確保が見いだせない。

#### <経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、利用者ニーズの変化への対応、人件費の増加、店舗施設の狭隘・老朽化が上位を占め、人件費以外の経費の増加、材料等仕入単価の上昇を問題としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、このところ足踏み状態となっている。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、一部に弱めの動きがみられているものの、基調としては緩やかに持ち直している。観光は、厳しい状況が続いている。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増加している。生産は、増加している。

企業部門の動向を短観（12月<鹿児島・宮崎両県集計分>）で見ると、景況感は、持ち直しつつある。設備投資は、高水準で推移している。こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、弱い動きとなっている。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を下回った。家電販売額と乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を下回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回って推移している。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家を中心に前年を上回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、汎用・生産用機械、輸送機械を中心に前月を下回った。

6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、上昇した。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を下回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回った。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。